3 薬価階級別薬剤点数

薬価階級別薬剤点数の構成割合を院内処方、院外処方別にみると、ともに「250円未満」が最も多く、それぞれ82.1%、79.1%となっている。また、年齢階級別にみると年齢が高くなるほど「500円以上」の割合が低い傾向となっている。(表16、図19)

表16 院内処方 - 院外処方別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合

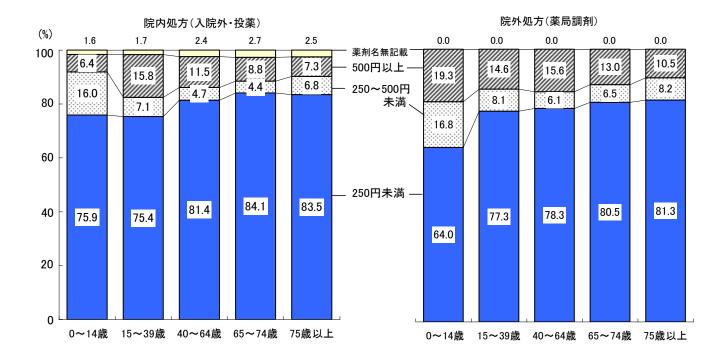
(単位:%)									(平成20年6	6月審査分)
	総数	250円未満							500円	薬剤名
		総数	50円 未満	50~100 未満	100~150	150~200	200~250	250~ 500	以上	無記載
院 内 処 方 (入院外·投薬)	100.0 (100.0)	82.1 (82.6)	31.2 (30.9)	24.6 (24.3)	13.4 (13.5)	10.9 (12.1)	2.0 (1.7)	5.8 (6.3)	9.6 (8.5)	2.4 (2.6)
一般医療長寿医療	100.0 100.0	81.3 83.7	30.4 32.6	24.4 24.9	13.5 13.2	10.8 11.1	2.1 1.8	5.3 6.7	10.9 7.2	2.4 2.4
院外処方	100.0 (100.0)	79.1 (80.1)	28.2 (28.3)	23.7 (23.9)	13.8 (13.8)	10.9 (11.6)	2.5 (2.6)	7.6 (7.4)	13.3 (12.5)	0.0 (0.0)
一般医療長寿医療	100.0 100.0	77.9 81.2	27.2 29.8	23.6 23.8	13.7 14.1	10.7 11.3	2.6 2.3	7.3 8.2	14.8 10.6	0.0 0.0

注: 1) 院内処方は、「投薬」の出現する明細書を集計の対象としている。ただし、「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を 包括した診療行為が出現する明細書は除く。

2) ()内は平成19年6月審査分

図19 年齢階級別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合

(平成20年6月審査分)



注: 院内処方は、「投薬」の出現する明細書を集計の対象としている。ただし、「処方せん料」を算定している明細書及び 「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。

4 薬剤種類数

薬剤種類数別件数の構成割合を院内処方、院外処方別にみると、ともに「1種類」、「2種類」が多くなって いる。1件当たり薬剤種類数をみると、院内処方で3.57種類、院外処方で3.87種類となっている。また、年齢 階級別にみると、年齢が高くなるほど「7種類以上」の割合が高い傾向となっている。(表17、図20)

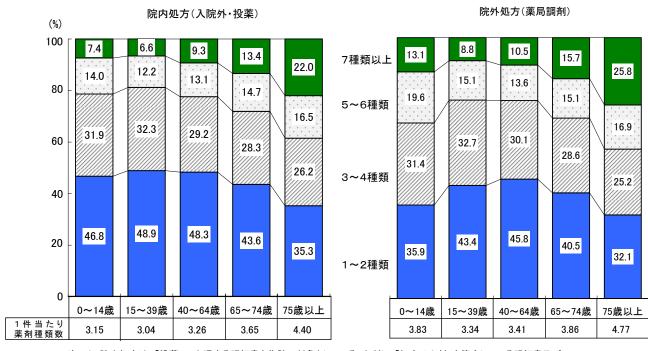
表17 院内処方 - 院外処方別にみた薬剤種類数別件数の構成割合・1件当たり薬剤種類数

(亚成20年6月宋本公)

											(十成20	年6月番金分)
	総数	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類 以上	1件あたり 薬剤種類数
				構	成割	(単	位: %	ó)				
院 内 処 方 (入院外·投薬)	100.0 (100.0)	22.9 (22.5)	21.2 (21.3)	16.7 (16.8)	12.3 (12.4)	8.4 (8.7)	5.8 (5.9)	3.9 (4.1)	2.8 (2.7)	1.9 (1.9)	4.0 (3.8)	3.57 (3.57)
一般医療	100.0	24.7	22.5	17.5	12.6	8.2	5.3	3.2	2.2	1.4	2.5	3.28
長 寿 医 療	100.0	17.4	17.6	14.4	11.6	9.1	7.3	6.1	4.7	3.4	8.5	4.46
院外処方(薬局調剤)	100.0 (100.0)	19.6 (19.4)	20.1 (20.2)	16.6 (16.6)	12.6 (12.6)	9.1 (9.3)	6.6 (6.6)	4.6 (4.6)	3.2 (3.3)	2.3 (2.4)	5.2 (5.1)	3.87 (3.87)
一般医療	100.0	21.0	21.3	17.4	13.2	9.2	6.2	4.0	2.6	1.8	3.3	3.56
長 寿 医 療	100.0	15.4	16.4	14.3	10.8	9.0	7.9	6.3	5.0	3.9	11.0	4.81

- 注:1) 院内処方は、「投薬」の出現する明細書を集計の対象としている。ただし、「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を
 - 包括した診療行為が出現する明細書は除く。 院外処方は、「薬剤」の出現する明細書を集計の対象としている。
 - 3) 薬剤名無記載は、1種類としている。 4) ()内は平成19年6月審査分

図20 年齢階級別にみた薬剤種類数別件数の構成割合・1件当たり薬剤種類数 (平成20年6月審査分)



- 注:1) 院内処方は、「投薬」の出現する明細書を集計の対象としている。ただし、「処方せん料」を算定している明細書及び 「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。
 - 2) 院外処方は「薬剤」の出現する明細書を集計の対象としている。
 - 3) 薬剤名無記載は、1種類としている。

5 薬効分類別にみた薬剤の使用状況

薬効分類別薬剤点数の構成割合をみると、入院では「抗生物質製剤」が最も多く、次いで「生物学的製剤」、「中枢神経系用薬」の順となっている。院内処方では「循環器官用薬」が最も多く、次いで「その他の代謝性医薬品」が多く、院外処方では「循環器官用薬」が最も多く、次いで「中枢神経系用薬」が多い。 (表18、図21)

表18 入院 - 院内処方 - 院外処方別にみた薬効分類別薬剤点数の構成割合

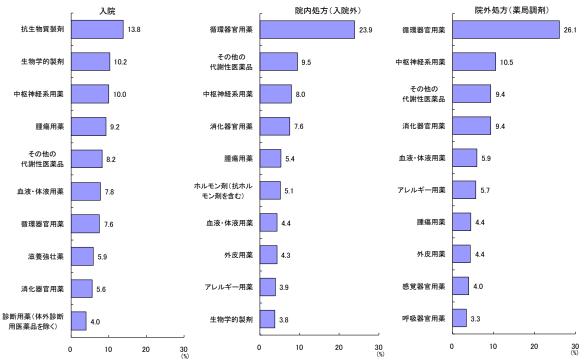
(単位:%) (各年6月審査分)

薬 効 分 類	入 院		院内 (入院	処方 完外)	院外処方 (薬局調剤)		
米 刈 刀 規	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年	
	(2008)	(2007)	(2008)	(2007)	(2008)	(2007)	
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
中枢神経系用薬	10.0	10.0	8.0	7.9	10.5	10.1	
感 覚 器 官 用 薬	1.5	1.8	3.3	2.7	4.0	4.3	
循 環 器 官 用 薬 呼 吸 器 官 用 薬	7.6	7.8	23.9	23.9	26.1	26.8	
呼吸器官用薬	1.0	0.9	2.1	2.1	3.3	3.4	
消化器官用薬	5.6	5.2	7.6	7.9	9.4	9.4	
ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	1.9	1.5	5.1	7.2	2.5	2.7	
外 皮 用 薬 滋 養 強 壮 薬	1.2	1.0	4.3	4.6	4.4	4.3	
滋養強壮薬	5.9	6.3	0.9	0.8	1.2	1.2	
血 液 ・ 体 液 用 薬	7.8	8.1	4.4	3.9	5.9	5.4	
その他の代謝性医薬品	8.2	7.5	9.5	9.5	9.4	8.8	
腫瘍用薬 アレルギー用薬	9.2	8.5	5.4	4.4	4.4	4.6	
アレルギー用薬	0.4	0.4	3.9	4.1	5.7	5.5	
抗生物質製剤	13.8	14.7	2.3	2.7	2.7	3.1	
化 学 療 法 剤	3.7	3.6	3.1	3.6	3.0	3.0	
生物学的製剤	10.2	9.9	3.8	1.9	0.1	0.1	

注:1)入院及び院内処方は、「薬剤」の出現する明細書を集計の対象としている。ただし、「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く。

図21 入院 - 院内処方 - 院外処方別にみた主な薬効分類別薬剤点数の割合

(平成20年6月審査分)



注: 「薬剤」の出現する明細書を集計の対象としている。ただし、入院及び院内処方は、「処方せん料」を算定している明細書、 「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く。

^{2)「}総数」には、上記分類以外の「泌尿生殖器官及び肛門用薬」、「ビタミン剤」等の分類及び薬剤名無記載を含む。

6 後発医薬品の使用状況

薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合をみると、入院5.6%、院内処方9.7%、院外処方6.2%となっている。 また、薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合をみると、入院17.3%、院内処方25.0%、院外処方 18.3%となっている。

後発医薬品の薬効分類別薬剤点数の割合をみると、入院では「血液・体液用薬」が最も多く、院内処方及び院外処方では「循環器官用薬」が最も多くなっている。(表19、図22)

表19	入院 -	· 院内処方 -	院外処方別にみた後発医薬品の使用状況
20 1 0	/ NPJ li	רובאניווע	

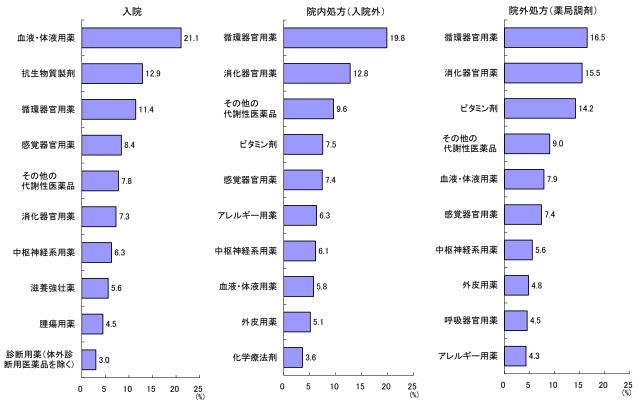
(単位:%)							(各年	6月審査分)
		平成18年	19	20				
		(2006)	(2007)	(2008)	一般医療	長寿医療	病院	診療所
	総数	6.6	6.8	7.2	7.2	7.1	5.1	9.0
薬剤点数に占める 後 発 医 薬 品 の	入 院	5.1	5.2	5.6	5.5	5.8	5.4	9.6
点数の割合	院内処方(入院外・投薬)	9.0	9.7	9.7	9.7	9.8	5.3	12.7
	院 外 処 方 (薬 局 調 剤)	5.3	5.5	6.2	6.3	6.1	5.0	7.3
	総数	19.0	19.3	20.5	20.3	20.9	16.1	22.5
薬 剤 種 類 数 に 占める後発医薬品の 種 類 数 の 割 合	入 院	15.0	17.2	17.3	17.2	17.5	16.9	22.5
	院内処方(入院外・投薬)	23.9	24.5	25.0	24.7	25.8	17.3	27.7
	院 外 処 方 (薬 局 調 剤)	16.1	16.4	18.3	18.1	18.7	15.5	19.6

注: 1) 入院及び院内処方は、「投薬」の出現する明細書を集計の対象としている。ただし、「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く。

2) 薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合 = <u>後発医薬品種類数</u> × 100 薬剤種類数

図22 入院 - 院内処方 - 院外処方別にみた主な後発医薬品の薬効分類別薬剤点数の割合

(平成20年6月審査分)



注:「薬剤」の出現する明細書を集計の対象としている。ただし、入院及び院内処方は、「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く。